

# 地域を守り、快適で健康、安心な暮らしを創る地域材。

## 地域の山を守り、快適な住まいをつくる地域材を見直してみませんか。

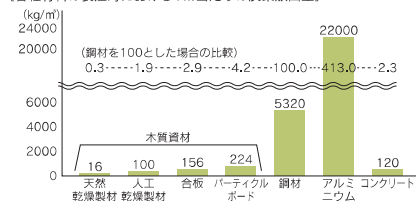
### 地球温暖化防止対策に貢献します

いま、急激に振興している深刻な問題の一つ、地球温暖化を防ぐため、日本は京都議定書で原因となる二酸化炭素の排出量を6%削減することを約束していますが、そのうち3.8%を国内の森林の吸収量でカウントするとしています。森林には二酸化炭素を吸収して貯える働きをはじめ右のような特性があり、二酸化炭素の排出量削減につながるのです。

もちろん、そのためには、日本の森林が十分に二酸化炭素を吸収できるように、適切な手入れをする必要があります。森林を適切に管理し、木材を上手に利用する。そして伐ったら植える。こうしたサイクルを繰り返すことで、日本の森林はずっと健全な状態を保つことができます。国産材を使うことが、地球温暖化防止につながるのです。

### ■木材は加工時の炭素の排出量が少ない

[各種材料の製造時における1㎡当たりの炭素放出量]



資料：林野庁「カーボン・シンク・プロジェクト推進調査事業」  
注：炭素放出量は、製造時に要するエネルギーを化石燃料の消費量に換算したものである。

### ■木質燃料は二酸化炭素を増やさない



### 近くで見られる安心で確かな品質

最近トレーサビリティという言葉が耳にします。野菜や生鮮食品などで生産・流通の履歴を辿ることができることを言い、トレーサビリティの確保は製品の信頼性を高めることにつながります。

木材においても、その「素性」がわかれば安心感が違います。樹木のときから使われるまでの品質を近くで確認できる、いわば「顔の見える」確かさ、安心感は国産材・地域材ならではのメリットです。

### 輸送エネルギーが少なく済みます

外国産の木材を日本に輸入するためには、長い距離を運ばなければなりません。そのため、多くの化石燃料を消費することに成り、環境に大きな負荷がかかります。一方、地域材は輸送距離も短いので、輸入材などに比べ輸送にともなう消費エネルギーを大幅に減らすことができます。地域材は省エネの優等生なのです。



### 日本の気候に合った木材です

木が育つ地域の気候はさまざまですが、木はそれぞれの環境にあった特性を持って成長します。日本の風土で育った国産材は、日本の環境の適応性も高くなります。

その地域で育った木は、その地域の家づくりにより適した木材となるのです。

### 里山や地域環境を守ります

日本の森林の多くは、間伐などの手入れが必要です。間伐を進め地域の山を守るため、間伐材などを積極的に利用することが求められています。

その一つとして最近注目されているのが木質バイオマスへの間伐材の利用です。たとえば、地域の間伐材を地元の向上で粉砕・圧縮加工した木質ペレットが、ストーブやボイラーの燃料として地元の学校や公共施設などで利用されるようになっています。

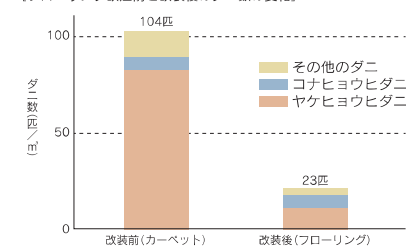
このように地域の木材を積極的に使うことにより、山元に利益が還元され、適切な森林の手入れを進めることができます。それは、自然災害から地域住民の生活を守り、豊かな地域環境を守ることにもつながるのです。

## 健康によい木のある環境

### ダニを寄せつけない木の床

あるマンションでダニに悩む家の床を、カーペットから木のフローリングに替えたと、ダニの数が激減したという調査結果があります。これは、木が湿気を吸い取ったり、ダニの隠れるすきまが無くなり、ダニが住みにくくなったからだと考えられます。ダニはアレルギーを引き起こすともいわれるだけに、清潔で健康な暮らしづくりにも木は果たす役割も大きいと言えます。

[フローリング改造前と改造後のダニ数の変化]



財団法人 日本木材総合情報センター・社団法人 全国林業改良普及協会・林野庁「木のある健康で快適な暮らし」をもとに作成/高岡・高野・宮崎、1985

### 木の殺菌パワー

最近0-157による食中毒や抗生物質のきかない細菌(MRSA)による院内感染のニュースがテレビや新聞にぎわっていますが、ヒバなどの木の成分には、こうした細菌に対して強い殺菌パワーがあることがわかっています。細菌などを寄せつけないことから、木の内装にする病院もあります。

## 快適で安全な木の空間

### 悪臭を消す木のおい

木はよいにおいがしますが、このにおいに悪臭を消す働きがあるのをご存じですか。ヒノキ、トドマツ、ヒバのにおい成分にアンモニアの悪臭を通したところ、高い消臭率があることが判りました。木の香りのする空間には、天然のデオドラント効果が期待できそうです。

[樹木精油の消臭率(%)]

悪臭	アンモニア	二酸化硫黄	二酸化窒素	酢酸
エタノール中の精油濃度(%)※	5 10 50 100	5	5	5
ヒノキ葉油	26 57 74 97	100	44	20
トドマツ葉油	24 47 68 96	100	40	19
ヒノキ材油	14	100	49	9
ヒバ材油	34 63 94			

※精油の消臭率はエタノールによる消臭を補正後の値。資料：谷田貝光克 山林、1998  
表は約60ppmの悪臭を、エタノールで希釈した精油中に通過させた場合の悪臭濃度の減少率を示したもので、希釈していない精油はいずれも60ppmのアンモニアに対して90%以上の消臭率がある。

### リラックスできる木の空間

森を散歩すると気分がいいのは、木から出るフィトンチッドという成分のためだといわれていますが、そのフィトンチッドを使った実験の結果、血圧が下がったり、脈拍のみだれが少なくなるなど、木の成分には私たちがリラックスさせる効果があることが判りました。ストレスの多い現代人にとって、木の家は理想の住まいといえるでしょう。

### ホルムアルデヒドを吸い取る木の成分

最近、シックハウス症候群が話題になっています。これは、家具、カーペットなどに使われる接着剤や塗料から出る物質が空気を汚し、頭痛やぜんそく、アレルギーなどを引き起こすというものです。中でも、接着剤から出るホルムアルデヒドが問題となっています。ところで、ヒノキ、ヒバなどの木の成分には空気中のホルムアルデヒドを吸い取り、減らす働きがあることがわかっています。

### 夏涼しく、冬暖かい快適空間をつくります

外気温と比べてとき、木造住宅は夏は涼しく、冬は暖かい快適な空間といえます。コンクリート造の場合は冬暖かくても夏の室温が外気温と同じになってしまうからです。

一方、木材には湿度を適度に調整する働きがあります。この調湿性も、私たちが感じる「暑さ」「寒さ」に大きく関係しています。こうした木材の断熱性と調湿性が快適空間をつくりだすのです。